

2023 年 8 月 26 日(土)

デッキブラシ 1 本から始まる世界

デッキブラシを持った一人の男性が薄暗いステージの上手から表れ、床を掃き始めました。客席からヒューと口笛が鳴ると、それが合図かのようにブラシで床を叩き出し、その音は次第に大きくリズムカルになって行きます…。イギリス生まれのパフォーマンス STOMP の始まりです。

東急シアターオーブで 13 年ぶりに再演された STOMP を観劇・体感して来ました。"stomp"とは、英語の他動詞で「足を踏み鳴らす」、あるいは自動詞「(怒りで)足を踏み鳴らして歩く」「ストンプダンスをする」ことを意味します。デッキブラシの他にも、モップ、ドラム缶、スーパーマーケットにある金属製ショッピングカート、ゴミ箱の蓋、ビニール袋、マッチ箱など身近にある様々な道具が楽器となり、時には身体の一部を使って叩いて鳴らしてリズムを刻みます。舞台に応じて客席でも手を叩き、指を鳴らし、身体を揺らして踊り出します。100 分を優に越える体感的時間、休む間もなく 8 人からなるストンパーは音を奏でて踊り、お笑いもあります。公演後の挨拶でストンパーの一人が日本人の女性（櫻井 多美衣さん）だと分かり、2 度目の驚きがありました。

19 年前のわが校の文化祭(聖祭)では、私が担任した高校 2 年 A 組ではクラス企画としてこの STOMP に挑戦しました。ストーリーを「聖ヶ丘の 1 日」とし、DVD を参考に係がストーリーを作り、代表メンバーが演技指導や振り付けをしました。最初は非協力だった一部の男子も、最後の 3 日間は集中練習して見事にデッキブラシを演じ切りました。惜しくも準グランプリでしたが、「まださらなる目標があることは素晴らしい！」と総括し、文化祭を終えたことを今でも昨日のように思い出します。役職柄、行事の度にクラスを持ってないことに一抹の寂しさ(?)を感じます。やはり教員にとっての最大の魅力は、生徒と共に損得を考えずに一つの目標に向かい、何か作り上げることに他なりません。さて、今年の聖祭はいかでしょうか。

校長 石飛 一吉